

目のまど

2018/4 発行

お知らせ

目の病気やお悩みについて
コラム形式で書いていきたく
と思います

バックナンバーはホームペ
ージに掲載してく予定です

眼科診療は西谷が担当して
おります。ご予約の際はご
確認ください

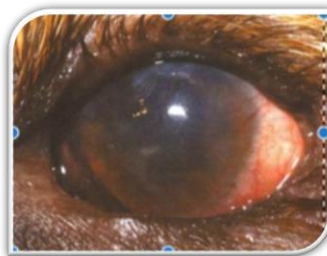
<http://noah-animal-hospital.jp/clinical.html>

犬のドライアイ

ドライアイは、気付かれるのが遅く炎症が慢性化している傾向が。そのままにしていると、目の表面がくもったり傷つきやすくなり視覚に影響することも。早めの眼科検診が大事です。

ドライアイ、いわゆる乾性角結膜炎（KCS）といえば、ヒトでも診断、治療されることが多い疾患で、この名前を聞いたことがないという人は少ないかもしれません。実は犬もドライアイの発生は多いのです。

目やにが多い、白目が充血するなどの症状で来院されることが多いですが、涙で目の周りの毛が濡れているなど、一見涙は十分そうに見えるのに目の表面は乾いている場合があります。



ドライアイにはいくつかタイプがあり、原因も様々です。自分の免疫が涙腺を攻撃してしまうことが原因で涙の液性成分が不足してしまう場合や、油性成分や粘液成分の分泌が不足して目の表面から涙が蒸発しやすくなることもあります。頭やまぶたの形が影響することもあり、特に鼻が短かく目が大きい短頭種とよばれる犬種に発生が多いようです。

治療は点眼薬を使います。タイプや原因、ライフスタイルによって目薬を組み合わせる処方します。一部のドライアイは一時的な治療で済む場合もありますが、ほとんどは点眼薬を継続使用して上手く付き合っていくことが大切です。

ご飯を飼い主さんにおねだりする時のキラキラした目は最大のチャームポイントですね。輝く瞳とクリアな視覚をいつまでも維持してあげたいですね。



目のまど編集者 自己紹介

こんにちは。ノア動物病院で眼科診療を担当している西谷理恵です。酪農学園大学獣医学部を卒業後、ノア動物病院に4年間勤務ののち、静岡や札幌市内の動物病院で勤務。2年前にノアに戻ってきました。眼科診療に興味を持ったのは、静岡で勤めていた時のこと。病院に眼科診療科があり、白内障手術を希望される患者さんが多かったのに驚いたことがきっかけでした。現在は酪農学園大学に研究生として所属し、眼科の勉強をしながら、日々診療に当たっています